

たまのよこやま

縄文時代

時の流れの中で
繰り返されてきた
祈りの日々

古墳時代

平安時代

平成26年度企画展示
始まる!!

『古代びとの祈りとマツリ』へのご招待

平成 26 年度の新たな企画展示、『古代びとの祈りとマツリ』が公開されました。

今年度は、遺跡や遺物にあらわれた縄文時代～古代の人々の祈り、願い、まじない、信仰などに焦点を当て、モノや情景に込められた古代人の精神文化をテーマに取り上げてみました。これまで、当センターの企画展示といえば、縄文時代の生活や文化を中心にしたものが多かったのですが、今回は、大きく時代を3つに区分して、それぞれの時代のマツリの情景について復元し、祈りやマツリの原点について、展示品に語らせようと試みました。

ところで、私たち日本人は、世界の民族に比べて、外来の文化に対して比較的寛容と言われます。それは、人生の通過儀礼や慣習などを例にとってみれば、よくわかります。

例えば、生まれてはじめてのお宮参りは近くの神社に行きます。家には仏壇があり、お彼岸にはお寺に行ってお墓詣りをします。また、正月には神社やお寺に初詣に行きます。やがて良き伴侶をえて、教会でキリスト教式結婚式を挙げるのはごく一般的です。他にも、いろいろありますが、現代の日本人にとっては、その都度、祈りや願いをかける対象が違っていても、何ら矛盾を感じることはありません。常に、外界からの刺激によって、何でも受容してきた日本人ならではの特性を示しています。

ここで、今回の企画展示の見どころについて、ほんの少し、かいつまんでお話してみたいと思います。



祈りの土鈴形土偶
(八王子市教育委員会所蔵)

まずは、縄文時代です。縄文の祈りは土偶や石棒祭祀に象徴されるような「死と再生」、配石遺構（環状列石など）にこめられた自然崇拝等について、祈りの情景を復元し関連遺物を展示しました。中でも、狩猟儀礼に関わるイノシシ形土製品やイノシシの顔面装飾を有する釣手土器は、とても珍しい遺物であり、

一見の価値があります。

また、土偶や石棒などは、人が何かを期待して作る「第二の道具」とも呼ばれます。現代人からすると非生産的な道具ですが、縄文人にとっては、きわめて重要な役割を果たしていたことがわかります。

つぎは、古墳時代のコーナーです。3世紀半ばから7世紀にかけて、日本列島では前方後円墳などの古墳がさかんに造られた時代です。今回、東京低地の足立区伊興遺跡から出土した祭祀遺物や、狛江市土屋塚古墳の円筒埴輪などを展示しました。ともに、古墳時代中期に相当する5世紀代のものです。

伊興遺跡は、東日本屈指の祭祀遺跡として知られ、河辺の微高地上に形成された遺跡では、水害からムラを守るための、銅鏡や土器や子持勾玉、多量の石製模造品を祭具とした神マツリの情景が見られます。また、土屋塚古墳の埴輪からは、多摩川中流域に君臨した王のマツリとその交流が窺える興味深い資料です。狛江市以外では、はじめての公開となります。

最後に、平安時代です。情景展示では、日野市内で発見された水辺の祭祀を再現しました。武蔵国府にほど近いこの場所では、多くの土器や鳥形木製品をはじめ、木簡などを用いたマツリが行われました。川に投げ込まれた土器や木簡には、多く墨書が施されていました。おそらく、清水により穢れを祓い、疫病や災害を除けるための国のマツリが行われたことでしょう。律令時代、祭祀は政治と直結し、まさに「まつりごと」に変容します。

今年度の企画展示を通して、悠久の昔、古代びとたちが抱いた祈りや畏れ、そして、厳しい自然と向き合いながらも、たくましく生きるためのマツリの文化力を感じ取っていただけたら幸いです。

(松崎元樹)



祭祀用の子持勾玉
(足立区教育委員会所蔵)

本遺跡が位置する中野区江古田三丁目地区一帯は、北側に妙正寺川の支流である江古田川が大きく蛇行する標高 32 ～ 39m の舌状台地で、通称寺山台地と呼ばれています。古くから縄文土器が採集される場所として知られており、東京都遺跡地図では中野区№ 27 遺跡（江古田遺跡）として周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されています。

寺山と称される台地上では、既に 3 回の調査が行われ旧石器、縄文、中世の遺構・遺物が検出されています。また、今次調査区の北東側に位置する台地斜面と低地にあたる北江古田遺跡では、約 1 ～ 3 万年前に形成された江古田泥炭層を始めとした低地部分が調査され、縄文時代早期から後期にかけての土器や石器のほか木器や編み物、漆製品等の植物質資料が出土し注目されました。

今回の調査は第Ⅳ次調査にあたり、独立行政法人都市再生機構による宅地造成工事に先立ち、調査対象とした約 20,000m²をいくつかの区画に分け調査しています。2013 年 9 月から表土掘削が開始され、10 月からは本格的な埋蔵文化財発掘調査を開始しています。

2014 年 2 月時点で、旧石器時代の尖頭器とナイフ形石器、縄文時代の竪穴住居跡と陥し穴土坑、古墳時代後期の竪穴住居跡、平安時代後期の竪穴住居跡、中世以降の溝跡や土坑などが検出され、それぞれの時代に伴う土器や石器などが出土しています。

特に、旧石器時代の石器に使用された石材は黒曜石や黒色珪質頁岩、ガラス質黒色安山岩で、東京では産出しないものです。また縄文時代の竪穴住居跡

は、内部縁辺に細かな礫（石）を敷き詰めるように並べ、さらには中期後葉の特徴を持った土器を埋甕炉や埋甕として、床面には土器を逆さまにして置く伏甕として使用していました。これは住居の中で祭礼を行ったもの、住居を廃絶する際に行った儀礼であるなど様々な説が唱えられています。

古墳時代では、現時点で竪穴住居跡が 1 軒だけ検出されています。しかし、国内の数多くのこの時期の調査例では集落が形成されていることから、新たな区画での発見が予想されます。

また、中世以降の時期についても、2003 年から 2004 年にかけて行われた中野区教育委員会による発掘調査の区域が、今回の調査範囲の北東側に隣接しており、中世の溝跡の一部や掘立柱建物跡、地下式土坑などが検出されていることから、それらに続く遺構が発見される可能性は高いと考えられます。

調査は現在進行中です。これからどのような遺構、遺物が発見されるのか期待されます。（並木 仁）



旧石器時代の石器（左：尖頭器 中央・右：ナイフ形石器）



調査区全景（2013 年 12 月 20 日撮影）



縄文時代中期の住居跡（中央に埋甕炉、上方に伏甕が見える）

ぶらり旧石器さんぽ Vol.7 (最終回)

—山の遺跡 ^{しものほらいせき} 下野原遺跡— —海の遺跡 ^{こうづしま} 神津島黒曜石原産地—

「ぶらきゅう」シリーズでは、東京都内の旧石器時代の遺跡を訪ね、旧石器時代人がどのような場所に暮らしたのか、それぞれの土地の起伏などの地形と景観の復元を通じて、紹介していきます。

山と海 東京の旧石器時代遺跡のほとんどは、台地と丘陵の平野に位置しています。平野の中をぐるぐ

にも遺跡があります。

平野が続く東京とは異なり、山あいの地域では川沿いのあまり広くない段丘上を住まいにして、山中から川までの多様な資源を求めて、川の上流から下流まで長い距離を季節的に移動しながら暮らしていたと考えられます。

(伊藤 健)



奥多摩町下野原遺跡

中央の建物が遺跡のあった場所。山に囲まれた海沢川沿いの段丘上に遺跡がある。旧石器時代の遺物はわずしか見つかっていないが、縄文時代の大きな集落が展開していた。

ると食料などを求めて季節的に移動して暮らしていたのです。しかし、山や海の多様な自然に接しなかったわけではありません。

東京の西端、関東山地の中にも、わずかですが川沿いの狭い段丘上に遺跡があります。山の幸を求めて、また峠越え経路に用いられていたのでしょう。

一方、海はどうでしょうか。当時の海岸は現在よりも低く東京湾の海底にあたるので、海岸際の遺跡はみつかりません。ただ、旧石器時代には魚釣りが行われていた証拠はなく、海洋利用は山ほどには積極的ではないようです。

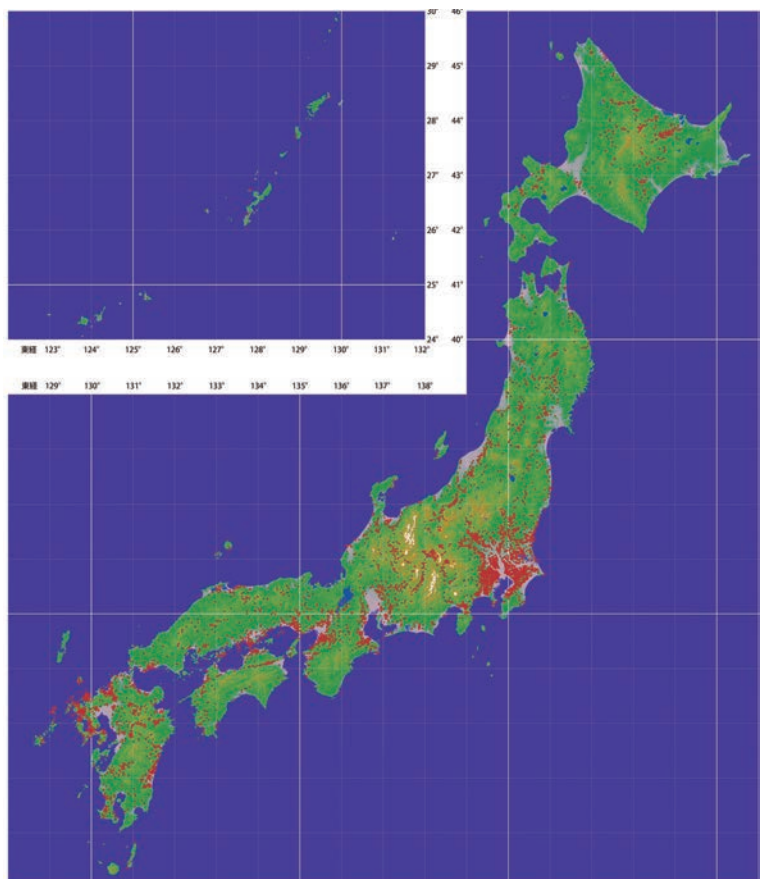
島しょ部でも遺跡は発見されていませんが、伊豆七島のひとつ神津島では黒曜石が産出します。本州の遺跡で神津島産黒曜石が利用されていますので、神津島に旧石器人が訪れていたことは確実です。

日本列島の遺跡 日本列島を見渡しますと、関東平野に遺跡が集中して平野に遺跡が多いのは明瞭ですが、九州山地や信州地方、飛騨地方のように山間部の様々な地形



神津島の黒曜石産地

砂糠崎の原産地 船の上に見える黒い帯が黒曜石の岩脈。(写真提供：新泉社・池谷信之氏 池谷信之 2005『遺跡を学ぶ014 黒潮を渡った黒曜石 見高段間遺跡』新泉社 より)



日本列島の旧石器時代遺跡

東京都には650、日本全体では約10,500カ所の遺跡がある。(日本旧石器学会編 2010『日本列島の旧石器時代遺跡』より)

大江戸 掘りものの帖 ～ 6 ～

穴の中からお茶壺？～港区・旗本花房家屋敷跡遺跡の調査から～

前回までは幕末期を中心とした品川台場のお話をしましたが、今回は少し趣を変えて、現在調査中の「旗本花房家屋敷跡遺跡」で見つかった地下室と、その中に残されていた壺のお話です。

「旗本花房家屋敷跡遺跡」は港区六本木交差点の北東側約 100 m にあり、備中高松の旗本・花房家が代々所有していた屋敷の跡を中心とする遺跡です。花房家は石高五千石で交代寄合（参勤交代を許された旗本）を務めたこともある大身の旗本でした。約 4,500 坪の広大な敷地の中に、屋敷や庭園、池などがあつたとされています。

現在調査中の区域は、屋敷の庭園部分にあたります。絵図などの調査から、庭園の池が調査区全体に広がっていることはわかっていましたが、その池の周囲には大小様々の地下室（地下に掘り込んだ貯蔵施設）や土取り穴（造成のための土を掘り出した跡）が見つかりました。これらの穴は、その役割を終えた後にゴミ穴として利用されることが多いため、陶磁器のかけらや魚・動物の骨、貝などの生ゴミ類がたくさん出てきます。しかし、花房家屋敷跡で見つかった 268 号地下室の中には、それほど多くのゴミは入っておらず、代わりに完形の壺が 5 個並べられた状態で見つかりました。これらの壺は、268 号地下室の北東側の壁に接し、床から約 50cm ほど浮いた状態で並べられていました（写真）。棚や台に置かれていた痕跡はなく、出土状況から地下室の床に少し土が溜まった（あるいはわざわざ埋めた）後に置かれたものと考えています。いずれの壺も、瓦や平たい石を蓋代わりにおいていました。

壺はいずれも「四耳壺」と呼ばれるもので、その名

は肩の部分に把手状の「耳」が 4 つ付くことに由来します。器の上半部に薄い黒褐色～茶褐色の鉄釉、その上に部分的に灰釉が流し掛けされ、色味にアクセントをもたせています。なお、いずれの四耳壺も生産地は信楽（現在の滋賀県甲賀市信楽町）で、17 世紀後半代に作られたものと考えられます。この壺は主に、お茶の葉を入れて保管する「お茶壺」として使われていました。

今回、周りを掘り下げている時から、壺の中に何かが入っているのはわかっていましたが、掘り出してみるとそれが透明な液体と黒いタール状の物質で、わずかに炭のような匂いがあることがわかりました。とてもお茶の葉とは思えないものでしたので、簡単な化学分析を行ってみたところ、イオウ、カリウムの化合物がそれぞれ確認されました。これらの物質が含まれる黒い物質としてまず考えられるのは、銃や大砲、花火などに使われていた黒色火薬です。黒色火薬は硝酸カリウムとイオウ、木炭を主成分とするものですから、壺の中身はこれでほぼ間違いないと思われます。

発見時の状況や、壺が全く欠けていないところから見ても、誰かが何らかの意図を持って黒色火薬を中に詰め、この穴の中に置いたものと考えて差し支えないでしょう。しかし、黒色火薬は湿気を吸ってしまうと火付きが悪くなり、燃えにくくなってしまいます。それなのになぜ、わざわざ湿気の多い地下室にきちんとした蓋もせずに置いたのか、疑問が残ります。また、そもそもなぜ黒色火薬を準備したのか、それが花房家とどのような関わりがあつたのかなど、多くの謎があります。これらを解明するには、もう少し時間がかかりそうです。（内野 正・合田恵美子）



旗本花房家屋敷跡遺跡（部分／上空から）
調査区の北側に庭園の池が広がり、そのすぐそばで 268 号地下室が発見されました。



268 号地下室から見つかった 5 個の壺。床に置いたのではなく、中に土が 50 cm ほどたまつた後に、並べて置いたようです。壺の上には、石や瓦が蓋代わりに置かれていました。

広報企画係の“つ・ぶ・や・き”

～ 職員オススメ！楽しい体験教室 ～

東京都埋蔵文化財センターでは、様々な体験教室を開催しています。どれも魅力いっぱいですが、その中から今回は、わたくしオススメの体験教室をいくつか紹介します。

まず最初は「縄文土器作り教室」。

各地の博物館施設でも土器作り体験が行われていますが、当センターの土器作りは、ひと味もふた味も違います。まずお手本が特別で、多摩ニュータウン遺跡から出土した本物の縄文土器をモデルに土器作りを行います。普段なかなか触れることのできない本物の縄文土器ですが、この時ばかりはしっかりと見て触れて、縄文時代の人達の技術を体感してください。使用する粘土も特製で、当センターのオリジナル。実は縄文時代の人々が実際に使用した粘土が遺跡から見つかっており、この粘土を使っているのです。作った土器は野焼きで焼き上げます。窯では出ない自然の焼ムラがよい味を醸し出してくれます。全てが「本物」にこだわった土器作りです。



「本物をお手本に・・・縄文人に近づけるかな？」

次のオススメは「糸作り体験教室」。

『たまのよこやま』91 で紹介した「カラムシ」という植物を使った古代の糸作りにチャレンジする教室です。遺跡庭園「縄文の村」で刈り取ったカラムシの皮を剥ぎ、繊維を取り出します。きれいに繊維が取り出せた時の驚きと感動はひとしおです。その繊維を撚り合わせて糸を作ります。慣れない作業にははじめは戸惑う方も多いですが心配無用。職員がしっかりサポート致します。作った糸は最後にストラップに仕立てます。材料から完全手作り。挑戦してみませんか？なお、カラムシからきれいな繊維を

取り出せる時期は限られてしまうため、年に一度、期間限定の体験です。



「古代人も使った糸をカラムシから作ろう！」

続いては「火おこし体験教室」。

当センターでは、7月から3月までの平日に火おこし体験が出来る、「火おこしマイスター」を実施してまいりました。「それならわざわざ応募しなくても…」と思われるかもしれませんが、この教室では、何と火おこし道具（舞hiri）を自分で組み立て、持ち帰ることが出来るのです。自画自賛になりますが、当センター製作の舞hiriは優秀で、着火率がとても高いのです。この機会に、自分だけの火おこし道具を手に入れてみませんか。



「親子で火おこしにチャレンジだ！」

他にも魅力的な体験教室が盛りだくさん。もちろん各体験では、それぞれにまつわる歴史も学ぶことが出来ます。**自由研究**にもぴったりでね。

裏表紙に、平成26年度の催事を掲載しております。気になる催事がございましたら、是非ご参加ください。お待ちしております。（武内 啓）

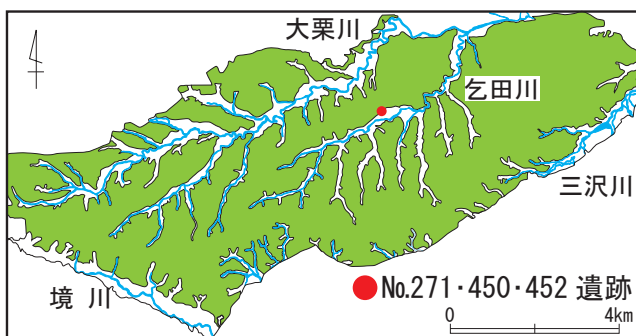
多摩ニュータウンNo.271・452、450 遺跡は、多摩川の流域河川である^{こったがわ} 乞田川の中流左岸に位置し、乞田川に面した南面する低地と、それに続く緩やかな斜面地に立地しています。遺跡の場所は、現在の多摩センター駅の北東に約 500 m、徒歩 5 分程のところにあります。

発掘調査は、多摩ニュータウン事業に含まれる土地区画整理事業の宅地造成に先立つものとして昭和 58 年 (1983) の 8 月から昭和 61 年 (1986) の 3 月まで、2 年 7 月をかけて実施されました。遺跡の面積は、3 遺跡合わせて、49,900㎡と広大なもので、調査により旧石器時代から近世に至るまでの長い期間活用された複合遺跡であることがわかりました。

ここでは、これらの遺跡の出土資料のうちいくつかを取り上げたいと思います。

東に位置する No.450 遺跡からは、縄文前期の^{ぎよ} 魚骨文土器が出土しています。前期前半の黒浜式の時期のものであると考えられる資料で「イワシ」の^{せきついでつ} 脊椎骨を施文具とした^{せもんぐ} 深鉢形土器の^{こうえんぶ} 口縁部破片です。この資料と同様に魚骨を施文具とした土器は、福島県・北海道から何例か出土していますが、いずれも中型魚の^{ろっこつ} 肋骨を折り取った脊椎骨を回転施文したものであり、本遺跡の資料のように肋骨を含む脊椎骨を^{おなづ} 押捺し、魚骨に^{あやすぎ} 綾杉・^{うじょうじょうもん} 羽状縄文のような文様効果を求めたものは、他例とは施文具のあり方・文様効果も著しく異なる等極めて稀有なものであり、同時期の貝塚から出土する魚骨との関係も視野に入れた検討が必要になる資料です。

奈良・平安時代の竪穴住居跡が 47 棟検出される等、多くの古代の遺構が発見されています。検出された住居跡は、^{ふくど} 覆土内から出土した^{はじき} 土師器と^{すえき} 須恵器



多摩ニュータウンの遺跡

の形式的な分類と年代観から集落規模の変遷が捉えられ、特に平安時代前半から中葉にかけての住居軒数の増加が認められます。

また平安時代初頭に作られた多量の瓦も出土しました。本遺跡の北側には、既に消失していたものの、845 年 (承和 12 年) の武蔵国分寺再建に際し瓦を生産した^{しもおちあいがようあと} 「下落合瓦窯跡」があったとの記録もあり注目されました。出土した軒丸瓦は^{のきまるがわら たんべんれんげもん} 単弁蓮華文、^{のきひらがわら からくさもんけい} 軒平瓦は唐草文系で、丸瓦が細い方に段を持たないことから、瓦の葺き方は「^{ぎょうきぎき} 行基葺」であったと推定されます。

丸瓦には、文字が^{いんこく} 陰刻 (極印) されているものや^{へらがき} 篋書されているものがありました。これらの文字は、^{りつりょうたいせいき} 律令体制期の武蔵国の^{ごう} 郷名もしくは^り 里名の可能性を有するものであると考えられ、本遺跡近傍に存在したと考えられる「下落合瓦窯跡」と武蔵国各郷・

里、さらに再建される武蔵国分寺との関係を物語る資料であり注目されます。これらのことから、本遺跡から発見された遺構と遺物には、古代東国における律令体制の崩壊過程のあり方が色濃く反映されていると考えられます。

中世以降の斜面を造成し段切り・溝跡等で区画した整地面が 5 面検出され多くの遺構群がまとまって検出されています。出土遺物も各種陶磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品等多岐にわたる資料が^{おびただ} 夥しく出土しました。これらの遺構・遺物は、おおむね近世の所産であり、18 世紀から 19 世紀前半のもので多摩ニュータウン地域における近世の農村景観を復元し、多摩丘陵の近世村落の実態を把握する上で貴重な資料であるとともに、遺跡発掘における近世遺構・遺物調査・研究の^{こうし} 嚆矢をなす調査でした。(山口慶一)



魚骨文土器

軒丸瓦

平成26年度 催事のご案内

催 事 名	対象／人数	日	時	備 考
東京都埋蔵文化財センター主催 文 化 財 講 演 会	参加自由	第1回6/14(土) 第2回9/13(土) 第3回11/29(土)	13:30～15:30	当日受付
東京都埋蔵文化財センター・ 多摩市教育委員会主催 文 化 財 講 演 会	参加自由	第1回2/4(水) 第2回2/11(祝) 第3回2/18(水)	13:30～15:30	当日受付
遺跡発掘調査発表会	参加自由	3/21(祝)	13:30～15:30	当日受付
展示説明会	参加自由	3/14(土)	午前の部 10:00～ 午後の部 13:30～	当日受付 1時間程度
映像上映会	参加自由	1/17(土)	13:30～15:30	当日受付
自然観察会	一般20名	①4/5(土) ②10/11(土)	10:00～11:30	往復はがきで申込み ①3/24 ②9/29 必着
縄文土器作り教室	①④一般30名 ②③親子15組 (小学4年生以上)	制作 ①5/17・18(土・日) ②7/19(土) ③7/20(日) ④9/6・7(土・日) 野焼き ①6/7(土) ②③共8/9(土) ④9/27(土)	制 作 9:30～16:00 野焼き 9:30～13:30	往復はがきで申込み ①5/7 ②③7/7 ④8/25 必着
土偶作り教室	①親子15組 (小学4年生以上) ②一般30名	①8/15(金)午前 ②10/18(土)	① 9:30～11:30 ② 9:30～16:00	往復はがきで申込み ①8/1 ②10/6 必着
縄文アクセサリー作り教室	①③一般30名 ② 親子15組 (小学4年生以上)	①6/28(土)午後 ②8/22(金)午前 ③12/6(土)午後	午前 9:30～11:30 午後 13:30～15:30	往復はがきで申込み ①6/16 ②8/8 ③11/25 必着
勾玉作り教室	①③一般30名 ② 親子15組 (小学4年生以上)	①6/28(土)午前 ②8/14(木)午前 ③12/6(土)午前	午前 9:30～11:30 午後 13:30～15:30	往復はがきで申込み ①6/16 ②7/31 ③11/25 必着
古代の糸作り教室	一般30名	7/5(土)	9:30～15:30	往復はがきで申込み 6/23 必着
古代の布作り教室	①親子15組 (小学4年生以上) ②③一般30名	①8/15(金)午後 ②8/30(土)午前 ③8/30(土)午後	午前 9:30～11:30 午後 13:30～15:30	往復はがきで申込み ①8/1 ②③8/18 必着
火おこし道具作り教室	親子15組 (小学4年生以上)	①8/14(木)午後 ②8/22(金)午後	午後 13:30～15:30	往復はがきで申込み ①7/31 ②8/8 必着
トンボ玉作り教室	各時間帯 一般6名	①7/12(土) ②9/20(土) ③11/8(土) ④12/20(土) ⑤1/24(土) ⑥3/28(土)	10:00～11:00 11:00～12:00 13:00～14:00 14:00～15:00 15:00～16:00 の希望する時間帯	往復はがきで申込み ①6/30 ②9/8 ③10/27 ④12/8 ⑤1/13 ⑥3/16 必着
貝のプレスレット作り教室	一般30名	10/11(土)	午後 13:30～15:30	往復はがきで申込み 9/29 必着
縄文食体験	一般10名 親子10組	①10/25(土) ②10/26(日)	9:30～13:00	往復はがきで申込み ①②10/14 必着
古代カマド作りと食体験	一般20名	11/23(祝)	9:30～15:00	往復はがきで申込み 11/10 必着
「拓本」を打ってみよう！	一般20名	11/1(土)	9:30～15:00	往復はがきで申込み 10/20 必着
縄文ワクワク体験まつり	参加自由 (勾玉作りは予約制)	5/3(祝)・4(祝)	10:00～16:00	当日受付
遺跡庭園であつたまろう！	参加自由	12/14(日)	10:00～15:00	当日受付
考古学相談室	参加自由	通年(土日は除く)	10:00～16:00	受付随時

- 往復はがきでのお申込みは、催事名・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入のうえ、東京都埋蔵文化財センター「〇〇〇(催事名)」係宛まで。
- 「一般」は中学生以上、「親子」は小学4年生以上の親子。一般対象の催事は、お一人につき1通の往復はがきが必要です。
- なお、応募された方の個人情報は、該当事業実施のための案内のみに利用します。

平成 26 年度企画展示 「古代びとの祈りとマツリ」 堂々オープン！！



たまのよこやま 96

東京都埋蔵文化財センター

2014 年 3 月 31 日発行

〒 206-0033 多摩市落合 1-14-2

TEL 042-373-5296

<http://www.tef.or.jp/maibun/>